

同志社大学スポーツ健康科学部
2026 年度 自己推薦（スポーツ）入学試験
結果講評について

同 志 社 大 学
スポーツ健康科学部長

同志社大学スポーツ健康科学部は、2025 年 11 月 1 日に 2026 年度「自己推薦（スポーツ）」入試の合格者を発表しました。

この入試は、高等学校在学中、学業とスポーツに真剣に取り組み、大学入学後も勉学と競技活動の両立を目指す生徒さんを対象とするものです。出願に際しては、全国大会または国際大会に正選手として出場するとともに、高校入学時より第 3 学年第 1 学期末までの評定平均値が 3.2 以上であることが条件となります。

本入試は、第 1 次選考が書類審査（40 点満点）と英語加点（20 点満点）、第 2 次選考が小論文審査（50 点満点）と面接審査（20 点満点）で行われ、合格判定は、第 1 次選考と第 2 次選考の結果を総合（130 点満点）して厳正に選考しました。

第 1 次選考における競技成績の判定に際しては、各競技種目の競技人口、大会の規模、競技バランス等も考慮し、また英語加点も加味して詳細に検討した結果、出願者 113 名中 59 名を合格としました。

第 2 次選考の小論文審査では、課題に対する論理的・客観的思考力および記述力を評価の主要観点としました。普段からスポーツ・健康科学にまつわる事象について関心や疑問を持ち、思考する習慣が必要となります。優秀な学生アスリートにとっては大切な態度・能力のひとつであり、同志社スポーツが目指す精神（自治自立）でもあります。

第 2 次選考の面接審査は、受験生 1 名に対して 2 名の面接官で実施しました。同志社大学スポーツ健康科学部への強い進学意欲があり、本学部の教育・研究等をよく把握している受験生が多数おられましたが、残念ながら大学での学習意欲を感じることができない方も若干名みうけられました。本学部はスポーツや健康に関するサイエンスを学習する場であると同時に、競技だけではなく広い意味でのスポーツ健康科学の発展の担い手となる人材を輩出することを目標としています。課外活動のみを希望される場合は、適切な進路先とは言えません。本入試の趣旨の通り、入学後に学業と課外活動を両立させる強い意志を持つ方を希望しています。

以上の第 1 次および第 2 次選考の結果、最終的に 36 名の合格者を決定しました。最終倍率は 3.2 倍でした。スポーツ健康科学部の求める学生像に即して、様々な競技種目から文武両道を実践してきた優秀な方々を選出しました。この入試で合格された方々が、今後、本学部を経て社会やスポーツ界のリーダーとして活躍してくれることを大いに期待しています。

以 上

<2026 年度 入試データ>

	合計	男子	女子
受験者総数	113 名	61 名	62 名
第 1 次選考合格者	59 名	32 名	27 名
第 2 次選考合格者	36 名	17 名	19 名

<合格者の競技種目>

ボート、ハンドボール、空手道、テニス、ラグビーフットボール、陸上競技、
サッカー、ソフトテニス、ダンス、カヌー、バトントワリング、バスケットボール、バ
ドミントン、ソフトボール、ゴルフ、アメリカンフットボール、アーティスティックス
イミング、ラクロス

2026年度 同志社大学スポーツ健康科学部
自己推薦(スポーツ)入学試験
小論文 試験問題

受験番号

- 注意：1. 解答は別紙の解答用紙1枚にすること。
2. 問題用紙・解答用紙を持ち帰ってはならない。
-

<問題>

1. 近年、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)上で、アスリートを非難する投稿が増加しています(別紙:日本経済新聞 2024年11月29日)。このようなアスリートへのSNSによる誹謗中傷に対する意見を述べてください。

<字数:400字以上 500字以内>

2. スポーツ庁や各スポーツ団体は、SNSによる誹謗中傷からスポーツ選手を擁護するためのさまざまな取り組みを行っています。スポーツ選手への誹謗中傷を防止して競技に専念できる環境を整備するには、どのような対策を講じることが望ましいと考えますか。

<字数:600字以上 700字以内>